

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

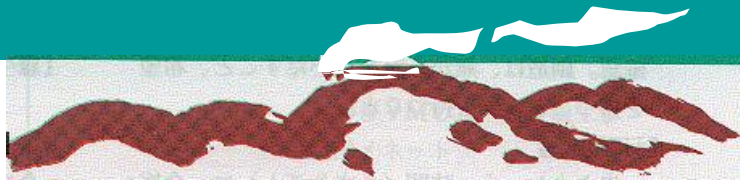
CHARTERED 1995



2016~2017年度 No.207

4月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：LT (リーダートレーニング)

那須ワイズメンズク



3月(ユースリーダー活動報告)例会 3月24日(金) 於：西那須野教会

2016~2017年度 主題
国際会長：(IP) Joan Wilson (カナダ)
「私たちの未来は、今日より始まる」
アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事：(RD) 利根川 恵子(川越)
「明日に向かって、今日働こう」
北東部長：長岡 正彦(もりおか)
「明日のために、今土台を築こう」

クラブ役員 事務局
会長：田村 修也
副会長：村田 榮
河野 順子
書記：荒井 浩元
会計：鈴木 保江
担当主事：荒井 浩元
ブリテン：田村・村田

3月例会データ(出席率：83.3%)
在籍者 6名
例会出席者 5名 メネット 2名
スピーカー(ユースリーダー) 4名
ピジター 1名、ゲスト 7名

今月の聖句
あなたがたの中で罪を犯したことの
ない者が、まず、この女に
石を投げなさい。

ヨハネによる福音書 8：7

東京目黒クラブ 那須クラブ
4月 Happy Birthday
4/25 福島多恵子メネット なし

巻 頭 言

会長 田村 修也

西那須野教会のパイプオルガンについて

西那須野教会のパイプオルガンは、創立百年を記念して福本治夫牧師と光子牧師が献げて下さったものです。福本先生ご夫妻は、1955年（昭和30年）、今から62年前にこの教会に赴任されました。この時治夫牧師は29歳でした。着任と同時に精力的に奉仕され、①教会堂の移築②幼稚園の設立③英語学校の開設④農村センターの開設、そしてアジア学院設立等次々とこの地域の伝道、教育、福祉、地域振興のために献身されました。創立百年記念事業といたしまして、①新会堂の用地取得と建設②百年史の刊行③教会墓地の整備④記念式典が献げられました。パイプオルガンは日本での第一人者と言われる東京芸術大学の岳藤先生の紹介で、ドイツのケーベル工房に製作を依頼しました。完成と同時にケーベルさんが逝去されたので、弟子のクライスさんが西那須野に滞在して1週間かけて設置しました。木村眞喜子さんはこの時アシスタントとして奉仕しました。総経費は1,500万円でした。奉献式には岳藤先生が記念演奏をされました。

福本先生がパイプオルガンの寄贈を決意されたのは、この教会堂の設計がほぼ終わった時でした。そのために、天井に切り込みをいれてパイプオルガンが設置できるようにいたしました。福本先生は当時の新聞記者のインタビューの中で、「これまで2回、旧ソ連や東欧の教会を訪問しましたが、どんな田舎の小さな教会に行っても、パイプオルガンが備え付けられているのに驚きました。私たちは、後1年半で退職する予定ですが、これまでお世話になった地域と教会への御礼として寄付することにいたしました。」と話しておられました。

このパイプオルガンが設置されて以来、特別の理由が無い限りほぼ毎年演奏会が開かれ、地域の方々にパイプオルガンを通してキリスト教音楽の素晴らしさを心行くまで味わって頂いております。第1回目のコンサートは松が峰カトリック教会のオルガニストで、それ以降は明治学院大学学院長の久世先生、国際基督教大学名誉教授の丹羽先生のお世話で、日本を代表するチャペルオルガニストの方々にお出で頂いて最高の演奏をして頂いております。すべての演奏会はチャリティーで益金はアジア学院を始め各施設に献げられています。パイプオルガンは、この教会で35年間ご奉仕して下さいました福本先生ご夫妻の召命と献身の証しそのものであります。深く感謝いたします。今では、

西那須野教会は、日本のパイプオルガニストの養成学校である聖グレゴリオの家と特設繋がりを持つ、地方では数少ない貴重なパイプオルガニストの養成の場となっております。

福本治夫先生は栃木県に初めて設立される宇都宮YMCAの設立時には西那須野教会員6名と共に会員になられ、其の後那須YMCAのサタデークラブはじめ様々な活動に積極的にご支援いただきました。現在設置20年以上経過したパイプオルガンのオーバーホールのために、クライスさんが来て作業に当たっています。今なら800本以上のすべてのパイプを見ることができます。今年のクリスマス例会では、若返ったパイプオルガンの演奏で燭火礼拝を守ることが出来るでしょう。

3月（ユースリーダー活動報告）例会

担当主事 荒井 浩元

日 時：3月24日（金）午後6時～

場 所：日本基督教団西那須野教会1階ホール

参加者：田村会長、河野副会長、村田副会長、原田、荒井、メネット：田村、原田、スピーカー：笠間脩平（しゅうまい）、滝田直輝（いもに）、橋本裕翼（もっちゃん）、須江卓矢（すっちー）

ビジター：塩澤とちぎYMCA総主事（宇都宮）

ゲスト：潘炯旭牧師、YMCA・西那須野教会関係者6名 合計：19名

3月例会では、今年度に全国のユースプログラムに参加した那須YMCAのユースボランティアリーダーが報告を聞くリーダー活動報告例会となりました。今回の例会で報告をしたリーダーと報告内容を紹介します。

■第47回全国YMCAリーダー研修会

・須江 卓矢（すっちー）

■第4回北東部リーダーズアクト

・橋本 裕翼（もっちゃん）

■日本YMCA大会2016・リーダー生活4年間の総括とYMCA奉職への抱負

・笠間 脩平（しゅうまい）

・滝田 直輝（いもに）

まず、全国YMCAリーダー研修会では、「体験を確かなものに『Because of～あの体験があったから今の私がある』」のテーマをもとに全国のユースリーダーが集まり、講演やディスカッション、プログラムを通して、YMCAリーダー組織を牽引するひとりとして、子どもたちのリーダーとして意識を高めていきました。

日本YMCA大会では、「ユースエンパワーメントを加速する～私たちの活動が社会を変える～」のテーマをもとに講演やディスカッションなどを通して、「ユースエンパワーメント」について考えを深めていきました。また、報告をしたしゅうまいリーダーといもにリーダーは、3月に国際医療福祉大学を卒業し、4月からとちぎYMCAの施設「特別養護老人ホームマイホームきよはら」で就職することになりました。那須YMCAで活躍していったリーダーが、こうしてYMCAのスタッフとして活躍していくことはとても嬉しいニュースとなりました。彼らには4年間のリーダー生活の感想と4月からのYMCAスタッフとしての抱負の発表をしていただきました。彼らの発表は、4年間の成長を存分に表現されており、例会参加者全員が彼らの卒業を祝い、素敵な門出を迎えられるよう願いました。



最後に、北東部ユースリーダーズアクトでは、初日には、とちぎYMCA杯エンジョイド

ッジボール大会に盛岡YMCA、とちぎYMCAのユースボランティアリーダーが被災した福島県南相馬市と宮城県多賀城市のチームを含む30チームのサポーターや大会運営支援を行いました。その夜は、盛岡ととちぎのユースがとちぎYMCAの施設「わいわい道場宿」に泊まり、お互いの交流を図り、2日目には、場所を変え、「福島の子もたちと一緒に笑顔！」をテーマとしたフォーラム『みらくるプロジェクト』を開催しました。これらをリーダー有志が企画し運営できたことは、YMCAの通常活動では体験できないことを体験することができました。

今回のリーダー報告は、それぞれのプログラムで体験したことや学んだことを熱く語り、リーダーたちにとってYMCAユースボランティアリーダーとしての再確認の会となったのではないかと思います。この度はこのような報告の機会を頂きどうもありがとうございました。

3月役員会報告

日時：3月3日（金）18：30～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、荒井書記、田村メネット、

協議事項

1. 2月例会（CS公開講演会）の反省

29名の参加で大変良い会であった。ユースリーダーの参加がほしかった。カレーのご飯がかたかった。メンバー増強につながればと思う。

2. 3月例会について

ユースリーダーの活躍報告会。日時、3月24日（金）午後6時～。場所：西那須野教会。報告者6名。会費：500円。全体として20名を計画する。カレーの準備は河野副会長。お米は田村会長。ジャガイモは村田副会長。

3. 那須YMCAユースリーダー卒業を祝う会について（3月5日（日）午後6時から。那須YMCAにて開催）

卒業リーダーにワイズとして記念品を村田が出席をし渡す。男子4名、女子7名。記念品は、男子が名刺入れ。女子がポーチ。

4. 4月役員会について

4月7日（金）午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。

協議内容は4月例会、5月例会、その他、ブリテンの原稿

5. その他

- ・小柳初代理事長を偲ぶ会 3/5 宇都宮上町教会
- ・東京YMCA総主事就退任式 3/19
- ・地球市民育成プロジェクトについて。
- ・ひろ君を救う会・しいたけ昆布の購入 3・15

旧西那須野（那須西原）の緑と水（49回）

田村修也

印南・矢板の両人は国からの回答が来る間も惜しんで、前回同様に上京して、関係方面に必死になって猛運動を進めました。しかしながら、政府におきましては、一応調査の必要ありとしまして、内務省土木局の渋谷吉蔵に命じて、西岩崎、細竹取入れ口予定地や、水路線等の測量をさせたのですが、恐らくは財政上の都合がつかないのではありませんか、当分の間「詮議相成り難し」という挨拶しか返って来ませんでした。

上京以来在京30余日、連日の猛運動も遂にこのような結果になってしまい、両人の失望と落胆はどんなに大きなものであったかを考えると、はらわたが痛む思いです。

今にも大水路が開削されると多大な期待をかけている現地の人々に「どの面さげておめおめ帰れようか」。それはまだよいとしても、その緒についたばかりの那須野が原開拓は、この先どうなるのであろうか、これを思い、かれを思えば、政府のただ一片の「詮議相成り難し」というお沙汰位で、どうしてあきらめること

が出来ようか。印南・矢板両人は、断固請願運動を継続して行くことを腹に決めて、次なる方策を立てるために6月9日一先ず帰県したのでした。

私費を以って隧道試削ことここに至っては、尋常一様的手段では目的を達成することは出来ない。背水の陣というか、捨て身の構えというか、兎に角一大決心をしなければならぬ事態に陥ったのであります。そこで両人は、いろいろ相談した結果、次のような方策をとることに衆議一決しました。

今計画している水路は、取入口を西岩崎とすると、数百間の隧道を掘削する必要がある、後日政府において、この請願を採納して工事を施行することになった時、この隧道一つのために、多くの日数を必要として、竣工を遅らせることにもなりかねない。そののみか、若しその岩質が不適當である場合には、工事が非常に困難になり、よれによって多くの経費を要することになる。これらを考慮して、我々の私費でもって、隧道を試鑿してみよう。それまですれば、政府といえども傍観しているようなことはしないだろう。そうだ、先ず隧道の試鑿だ。間違いであったら、個人の財産を投げ出すまでだ。このような決心が定まったので、6月13日附をもって次のような願書を提出しました。

那須水路試鑿之儀二付御願

那須原疏水ノ儀ハ、官ニ於テ御起業被為候御都合ニ相聞候処、水路隧道数ヶ所之上、岩質モ一定セス、故ニ、他日御着手相成候節、果シテ隧道ニ適スルヤ否ヤ、表層ヨリ御鑑定モ相立兼候哉ニ承知仕候、然ル処、御起業ノ儀モ、未ダ期限御未定ノ由、就タハ、御着手迄ノ間、御差支モ無之候ハバ、私共自費ヲ以テ、多少ノ試験掘致シ、岩質ノ適否識別致置、他日御着手ニ臨ミ水路位置被定候御参考之一端ニ供シ候様仕度存候、右水利ハ、私共、那須原開墾上大ナル関係候儀ニ付、試鑿之儀ハ、開墾人民ノ義務ト心得、前条ノ通奉願候、至急御聞届被成下候、此段奉願候也。

那須原開墾惣代 印南文作
同 矢板 武

栃木県令 三島通庸殿

右願書に対し、那須郡長荒賀直哉が、次の添申を添えました。

那須水路試鑿之儀二付添申

那須開墾社惣代矢板武・印南文作ヨリ、別紙之通り願出、其事実取調候処、一体那須原之儀ハ、岩石ノ起伏モ一定セス、殊ニ数ヶ所隧道ヲ設ク可キ様ニモ被考候間、願意御許可相成候様致度、此段添申候也。

明治17年6月15日

栃木県那須郡長 荒賀直哉

栃木県令 三島通庸殿

この願書を受取った三島県令は、直ちに次の上申書を添えて、農商務卿松方正義に進達した。

那須原水路開墾之儀上申

本県那須原野へ水路開墾之儀ハ、嘗テ、御省ヨリ実地御調査相成候処、今般、該地人民ヨリ、別紙ノ通願出候条、御差支モ無之候ハバ、御聞届相成候様致度、此段上申候也。

明治17年6月18日

栃木県令 三島通庸

農商務卿 松方正義殿

これに対して政府においても、許可差し支えなしという指令を発したので、7月6日付けを以って、先に提出した願書の末尾に、下記の通り朱書でもって許可の指令を書いて差し戻されました。

第4628号

書面願之趣聞届候事

但シ掛官出張検査為致候儀モ可有之候条、試験ノ手續ハ同掛ノ指揮ヲ受可事。

明治17年7月6日

栃木県令三島通庸代理少書記官 樺山資雄

(以下次号へ)

今後の予定

・4月役員会

日時：4月7日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：4月例会、5月例会、5月号ブリテンの発行等。

・4月（植樹）例会

日時：4月29日（土）午前10時～

場所：那須街道赤松林駐車場

内容：植樹、クラフト。昼食後那須疎水の見学

・第3回北東部評議会

日時：4月22日（土）

場所：宇都宮で予定

・5月例会

内容：那須YMCA活動報告会

場所：西那須野教会1階集会室

日時：5月26日（金）の予定

・第20回東日本区大会

日時：6月3日（土）・4日（日）

会場：ウェスタ川越

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫
入園・進級して一週間になろうとしています。

さて、今は子どもたちの人生において家庭から社会へ初めての一步を踏み出したばかりのところ。慣れるまで、登園をいやがったりすることは、ある意味では当たり前のことです。朝は励まし、帰ってきたら褒めてあげてください。在園児もクラス替えて同じような心境の子どもたちもおりますので、宜しくご理解・ご協力お願い致します。

さて、13日から自園調理の給食が開始されます。食材が相次いで値上げする状況のなか、栄養士さんに更なる工夫をお願いしているところです。本園の給食の歴史は、県内においてもパイオニアです。開設当時、いつもご飯とキュウリの漬け物で、お弁当箱を隠しながら食べている子どもがおり、前福本治夫園長が、幼稚園では皆同じであるということで、1962年から給食が開始されました。

本園の献立は、前月に献立案を栄養士が作り、職員の給食委員会とクラス1名の保護者代表の給食諮問委員で検討し、実施されます。また、給食諮問委員の方には、自分の子どもがいないクラスで、月1回試食もお願いしています。食物アレルギーや宗教的タブーもあり、別に調理するなど、可能な限りの対応をしています。

また、給食は食育、教育の観点からも素晴らしい教育要素の一つです。幼い時に和洋中に代表される様々なメニューを食し、同じ食べ物を大切に分け合う体験はとても重要です。食べ物を大切にすることは、ある意味に於いて命や環境を大切にすることにつながるからです。日本の学校給食、レストラン等で食べられるものが、残飯として年間1000万トンがゴミとして捨てられています。これは日本で生産されるの米の1年分と同じ量にあたります。「エコノミー（経済）」の原語は、「オイコノミア」で、その意味は「家庭を切り盛りする」ということです。地球を一つの家と考え、食べ物が無く食べられずに飢えている兄弟姉妹に食べ物を分けず、捨てているということになります。

幼稚園の給食では、神様、生産者、調理者に感謝してから、皆が同じものを分け合ってください。この日常的な「分かち合い」の経験の積み重ねは、きっと子どもたちの将来に渡って影響する教育のひとつと考えています。

(しらゆり 2017.04.14号より)

学校法人 アジア学院だより

学校法人 アジア学院
校長 荒川 朋子

アドミニストレーションの反対語2

今回はアドミニストレーション（管理、経営）の反対語は何かということについて書きました。アジア学院のお二人の理事のメールでのやりとりから、おひとりはアドミニストレーションが既にできあがった物や組織を動かすことであるのに対して、その反対の概念は農民や職人の仕事をたとえに「人が人らしく生きて行くために必要とするものを作り出すこと」ではないかと答え、もうおひとりは「霊性」とであると答えました。そしてその方は「あらゆることの中に、霊性を主張していきたい。もちろんアドミニストレーションの中にも」という理想を語られました。それに対して私は、ではどのようにしたらそれが可能なのかという質問で前回の文章を終わりました。

かつてアジア学院には Spirituality and Rural Life 「スピリチュアリティ（霊性）と農村生活」という授業がありました。その授業のテキストの中に高見敏弘先生の書かれた教材があり、そこには「霊性は神と我々の中に表されている神の業に関係すること」とあります。しかし「霊性は完全には人間には分からない、私達には完全には表現することはできないし、説明することもできない。また霊的な経験をしたといっても、それは人間が霊性をもっていることにはならない。聖霊は神であり、その聖霊なる神を私達の生活で経験することが霊性なのである。」と言っています。さらに「聖霊との交わりや体験は私達をより人間らしく、より謙虚に、より完全な人間に近づける。そしてそれこそが神の業である。」さらに、「霊性なしでは私達は完全な人間になれない。だから霊性に欠けると、我々は何か重要なものを失っていることになる。霊性は人間の生活に不可欠な部分である。」と言っています。この説明を見ると、先のアジア学院理事の「あらゆることの中に、霊性を主張していきたい」という気持ちがわかります。それがないと私たちは不完全な人間のまま生きていかねばならないからです。しかしその後の「もちろんアドミニストレーションの中にも」となると、ハードルが上がってくるような気がします。でもあきらめてはいけません。もうちょっと考えてみましょう。聖書（新約聖書ガラテヤの信徒への手紙 5章22～25節）に「霊の結ぶ実が愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制である」という言葉があります。これらが人間が人間らしく豊かに生きていくために必要であることは自明です。ア

ドミニストレーションであっても、それを動かすのも、動かされるのも人間なのですから、これらがなければおかしくなっていくのは想像がつかます。しかしこれらは霊が生み出すものだとあります。そして霊性は人間が人間中心に物事を進めようとする時にはきつと存在しないのですから、アドミニストレーションの中にも霊性を求めるならば、私たちは人や組織の経営や管理をする時に、人間中心の考えから一歩下がって、人間と人間の生み出したすべてのものの限界と弱さを覚え、驕り高ぶらない姿勢でいるということがまず第一ではないでしょうか。ではどうやったら私たちは「人間と人間の生み出したすべてのものの限界と弱さを覚え、驕り高ぶらない」で謙虚に生きていくことができるのでしょうか。本来の人間のすがたはこの姿とはほど遠いのです。こうなるには人間の変革が必要です。そして人間に変革を起こしてくれるのはやはり霊性しかないような気がします。では人は霊性にどうしたら触れることができるのか。それにはその人が霊性の存在を信じなければ始まりません。そうするとやはりこれは難しい問題なのか。いいえ、希望があります。アジア学院では月曜日から金曜日まで毎朝40分間の「朝の集会」という時間があります。その時間は毎日違う人が司会を務め、それぞれの信仰や信ずるところに基づいて自由に組み立てることができます。話だけでなく、音楽を演奏したり劇をすることもあります。決まりごとはただひとつ、霊的成長を促すためのものでなくてはならないということです。これまで経験からこの時間で表現されることは、たとえばはっきりとした信仰や宗教観を持った者でなくても、多くの方は、若い人はなおのこと「愛」「正義」「信仰」、あるいは「命」とか「死」などについての深い内省をし、自分の心の中の深いところと、人間とそれを超越した何か、神や自然といったものとの関係について触れています。つまり多くの方は霊性の存在に気づいており、それについて語りたい、自分の思いを知ってもらいたいという欲求を強く持っていることがわかります。私たちが必要なのは、アジア学院の朝の集会のように、それについて恥ずかしがらずに、誰にも否定されずに自由に語ったり議論できる場ではないかと思えます。そういう場が家庭の中で、学校の中で増えていけば、人間は霊性に触れる（気づく）機会が増え、よりよい人間に変革していく可能性も高くなるのだと思います。そうすれば、アドミニストレーションに携わる人にも霊性に深く気づいている人が増え、霊的なアドミニストレーションというものが生まれてくるのだと思います。ですから霊性についてすでに気づいている私たちの役割はとて大きいのです。

【全国YMCAユースクリアファイルのデザインが完成しました！】

YMCAはユースエンパワーメントのDNAを持っていること、そして、ユースの力を発信していこうという願いのもと、昨年度よりその想いを込めたクリアファイルを全国のYMCAで配布をしています。今年度はそのクリアファイルのデザインをとちぎYMCAユースボランティアリーダーと日本YMCA同盟ユース委員会が共同でデザイン作成を行い、約12,900名の全国YMCAのユースにこの素敵なクリアファイルが配布されました。

『Yes!! We are Empowered!!』今回、ファイル作成を行うにあたり、私たちは「つながる」をメインメッセージに掲げました。一緒に活動する仲間の存在が心の支えになっていることや、リーダーズフォーラムや日本YMCA大会などで出会った、同じ志を持つ仲間の存在が自分たちの原動力になっていることなどが、話し合いの中で挙げられました。YMCAを通して「つながった」想いや出会いを大切にし、さらに、未来へと「つなぐ」ことができるようにと願いをこめています。表面のデザインには、たくさん色が混ざり合う様子を描きました。異なるパーソナルカラーを持つ人々が集い、つながることで、新しい色を生みだせること、そして、自分(の色)は他の人を支えられる存在であることを表わしています。「Yes!! We are Empowered!!」は私たちユースの強い想いです。このクリアファイルが全国へ想いをつなげてくれることを祈っています。とちぎYMCAユースボランティアリーダー 一同』

【那須YMCA卒業リーダーを祝う会】

3月5日(日)に『那須YMCA卒業リーダーを祝う会』を開催しました。那須YMCAには国際医療福祉大学の大学生を中心として、子どもたちとのプログラムなどを支えてくださるYMCAでは欠かせないユースボランティアリーダーが沢山います。そして毎年3月には大学を卒業するリーダーがいます。そこで、いままでYMCAの『力』となってくださった感謝を込めて、祝う会を開催いたしました。また、那須ワイズメンズクラブより卒業記念品を卒業リーダーに手渡されました。そして、YMCAからは、日本YMCA同盟ユース委員会より届きました、特製クリアファイルを卒業リーダー、後輩リーダー全員にプレゼントいたしました。第2部は、後輩リーダーが主催する食事会を行いました。後輩リーダーが用意した食事を頂きながら、様々なゲームやサプライズがあり、卒業リーダーにとって、後輩リーダーにとってとても記憶に残る、



素敵な時間となりました。この度は、皆様のご協力・ご理解頂きどうもありがとうございます。次年度も開催したいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【とちぎYMCA・那須YMCAの4月の予定】

- ・ 3/27 (月) よりスプリングプログラム開始 (3プログラム)
- ・ 4/3 (月) 就業礼拝@宇都宮YMCA
- ・ 4/8 (土) とちぎYMCA職員歓送迎会@宇都宮YMCA
- ・ 4/10 (月) 英会話教室新年度レッスン開始
- ・ 4/13 (木) より西那須野幼稚園委託事業プログラム開始
- ・ 4/15 (土) サタデークラブ@大田原市ふれあいの丘
- ・ 4/22 (土) サタデークラブ@大田原市ふれあいの丘

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前 (リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

1. 藤澤咲恵 (でーる)
2. 国際医療福祉大学・保健医療学部看護学科
3. 福島県郡山市
4. 私がお爺ちゃんお婆ちゃんっ子で周りに小さい子どもなどがいなく、関わり方を知らなかったのです。だから大学中にボランティアを通して上手く関われるようになりたいなと思ったので入りました!
5. 川遊びです。初めてのYキッズ参加で、グループの子ども二人が1日中ケンカして大変だったからです(笑)でも、先輩たちのフォローのおかげで活動にハマ



ってしまいました!

6. 看護師
7. これからも頑張ります!!

1. 真壁京香 (ぴーす)
2. 国際医療福祉大学・保健医療学部看護学科
3. 宮城県

4. 将来の子供たちに関係するボランティアに参加してみたいと思ったから



5. Yキッズもサタデーも下見も全部思い出だけど、一番最初の野外炊飯がとてものしかったです! 緊張はしたけれどYが

どんな活動を知れたし、Yの方や先輩方と仲良くなれた活動だからです。

6. 看護師になりたいです!
7. これから

お知らせ

とちぎYMCAの人事異動により、那須クラブの担当主事が5月より変更になりました。内海 研治 (うちうみ けんじ) 主事が担当になります。

荒井さんは、学校法人から公益財団法人に移動になり、宇都宮青少年活動センターに移動。那須YMCAの担当を内海さんと共に担当することになりました。日程の都合により金曜日は内海さんの担当であるための移動です。2012年4月に入会以来5年間那須ワイズのために頑張っていたいただき感謝です。

5月の例会では、内海さんの入会式を行います。那須ワイズの発展のためにご協力・ご指導をください。

編集後記

那須も春真っ盛り。寒かった冬も過ぎ、桜の花も終わりを迎え、なんだか春が短く感じます。これから新緑の季節を迎えます。

那須クラブもまた大きく進展するために頑張ります。会員増強が必須課題です。

4月号ブリテンの発行が大変遅れてしまい、申し訳ありません。次月号よりまた気を取り直して頑張っていきます。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

那須クラブとして、年賀切手を収集し、59枚東日本区事務所に送付いたしました。古切手とリングブルの活動にも取り組んでいます。